

おーぷん



社会福祉法人さざんか会法人広報誌『おーぷん第78号2018秋』

発行：さざんか会法人本部/船橋市行田2-8-1/☎047-404-1135

編集：おーぷん編集委員会/けいよう/船橋市二和西5-10-1/☎047-411-8177

障がいのある人たちを前に、提供する支援や療育について、各々のニーズに適った質の高いレベルでのサービス提供は事業所の命題です。私たちは、最良の支援者であるために切磋琢磨しなければなりません。そのための各種研修の受講は欠かせません。

毎年、職員は外部で開催される研修に参加したり、法人が自主的に企画開催する内部研修を受講します。内部研修については、各事業所から運営委員を選出して貰い、「全体研修委員会」を構成して定期的に会議をもって、そのテーマや講師の選定、開催日時等を決めて行きます。船橋圏内全事業所対

象の企画は年に3回ですが、その内2回はこうして決められます。もう1回の企画運営は「サービ向上委員会(旧権利擁護・虐待防止委員会)」が担当します。「これは、主に虐待防止に関する事項をテーマとします。

今年度は、新たに「2年目職員研修」を企画しました。初年度職員研修はこれまでも必須であったのですが、2年目を迎える職員さんにターゲットを絞った研修は実施しておりませんでした。

昨年度末頃の船橋圏内施設長会議で「次年度の研修について」という事で議論していた時に、こういう意見が出されました。「2年目

というのとは大事な時期だと思いません。この仕事を経験して、自分なりの思いが作られていきます。そこに継続の意義を見出すのか、或いは迷いが生じてしまうのか。2年目という時期は大切な頃です」と。

児童通園施設「京葉学園」に勤務していた私はどうだったのか。45年も以前のこと故、一つひとつを正確には思い出せませんが、短期間とは言え障がい児療育の経験を経て、自身の選んだ仕事に何らかの価値を見出さんとしていたことは間違いのないようです。

早速、「2年目職員研修」を実施することになりました。

昨春採用の職員さんは9名いらっしゃいます。「この方々が対象です。2名の施設長さんに、この研修について企画や実行をお願いしまし

『背中を見て育つ』 社会福祉法人さざんか会 理事長 宮代隆治

おーぷん78号目次

P1 「背中を見て育つ」
さざんか会 理事長 宮代隆治

P2 権利擁護はいま
寄稿 奈良崎真弓 氏
「私の思い」

P4 各事業所夏だより

P8 特集 各事業所の
給食めぐり

P9 北総だより

P11 ランプ発

P12 さざんか会
後援会だより



イラスト：奈良崎真弓さん

た。お忙しい中、有意義な研修の機会とするため、いろいろ工夫して頂いたようです。その一つとして、先輩職員さんとの懇談の場がプログラムされました。事前に、2年目職員から先輩職員に対して「この仕事を始めたきっかけは」とか「モチベーションの高め方・保ち方」、「失敗した時の立ち直り方・対処法」、「楽しい時・つらい時はどんな時」

等々の質問が出され、それらを中心に意見の交換が為されたそうです。

この企画は、2年目職員にとって大変参考になったとの意見が出たようですが、先輩職員にとっても改めて、それまでの自己の職務や職責を振り返るに貴重な機会を提供したようです。

今、私の手許に2年目職員と先輩職員そのQ&Aがあります。一つひとつの意見、思いを拝読するとき若い日の私の思いと重なることも多くあり、思わず頷いておられます。そのいくつかをご紹介します。

持っていていらつしゃいます。「モチベーションの高め方・保ち方」には、「その日の中で、子どもたちの可愛いと思う様子を職員間で話すことで、また明日も会うのが楽しみだなと感じ、こんな成長が見られたから、明日も頑張ろうと思えます」と。正に、児童施設の醍醐味ですね。「仕事楽しいですか」には「楽しいです。自分の頑張った分だけの反応が素直に返ってくる仕事だと思つから」とか「楽しいことが続けば楽しいと思えますが、辛い事や上手くいかない事が続くと、嫌だな...と思つてしまいます」と。正直ですね。

志を立て、障害福祉の世界に飛び込んでくれた皆さん、それぞれの職場で一生涯汗を流し、時には喜びを時には悲しみを。それでも、日々障がいのある方々と時間と空間を共に過ごし、逞しく成長されます。一人ひとりが、利用者各位やご家族から信頼を得て、高く評価して頂けるような職員を目指して。

「2年目職員研修」の報告を頂き、そのやり取りを拝見して私の気持ちも軽く明るく、久々新鮮な息吹きを実感させて頂きました。研修参加の皆さん、本当にご苦労様でした。

権利擁護はいま

寄稿 「私の思い」

にじいろでGO!

代表 奈良崎 真弓

今回は4つのことについて書きたいと思います。

- (1) 家族のこと
- (2) 仕事のこと
- (3) これからやりたいこと
- (4) 悩みごと

(1) 家族のこと
私が大好きな家族のことを話します。私が一番に安心できる時は家族にいる時です。お母さんとはたまに口げんかをするときがあります。理由は部屋の片づけのことですねかをします。お母さんとけんかができることは私にとって幸せな

ことです。けんかができないと寂しくなります。お父さんのことが大好きです。病気になって今年で3年目になりますが、家にいるだけで私は元氣になります。7歳年上のお兄ちゃんがいいます。お兄ちゃんとはよく話します。話す内容は、家族や芸能のことが多いです。買い物も一緒によく行きます。それと、私の原稿づくりを手伝ってくれて、私の一番の理解者です。でも、時々けんかすることがあります。理由としては、お兄ちゃんの好きな音楽バンドのアルフィーのグッズの買い方でけんかします。もうひ

とり、今はもう1人になったけれど、4歳年上のお兄ちゃんがいきました。

アンパンマンのようなお兄ちゃんでした。家族がバラバラにならないように、ずっと一緒に暮らしていきたくて思いました。

(2) 仕事のこと

私は花屋で仕事をしていたので、4日くらい働いています。仕事の内容は、花を売るのですが、花束を作るためのラッピングもしています。最初のうちはラッピングがでなくて大変でした。今では少しだけできるようになって好きになってきました。初めはお客様との会話もできませんでした。最初のうちは、私がでいたテレビを見て会いに来た人もいました。今では私との会話を楽しみてくれる人も出てきました。ときどき計算間違いをするので、お客様が助けてくれます。花屋の仕事も

3年半になりました。ここでいろんな人たちと友達になりました。

店に来てくれる人たちが私の障がいのことを理解してくれたことがうれしかったです。

(3) これからやりたいこと

いつか私はまた福祉の仕事を、今度は自分のためにやりたいと思っています。いろんなことを体験してき

て福祉のことを理解してもらいたいです。同じ知的障がい者があります。場所や障がいがある無しに関係なく、みんなが集まる場所をつくりたいです。

②福祉の資格をとって、いろんな人たちのためにわかりやすい文章で書いた制度や法律、生活のガイドブックを作って役に立ちたいと思っています。

③海外で飛び回る仕事をしたいと思っています。

(4) 悩みごと

いつも軽い知的障がいと周りの人からよく言われることが、私には

すごいストレスになります。特に、私に関わる人や障がい者の親たち

に言われると、かなり辛くなります。重い知的障がい者の親たちに言われたことの中で、私たちのような障

害のある子どもや当事者たちの前で話をするとき、重いか

りも辛いことです。私が、皆さんの子どもさんと同じように知的障がい者

であることを理解してほしいです。私にはできないことがいっぱいあります。私が困ったときには、親

ちや周りの人や関係者の人たちも一緒に考えてほしいです。話しを聞いてくれるだけで私はず

れしいです。それと私は、優しい言葉をかけてもらったり、手や心に触れ合

ってくれたらすごく勇気を貰えます。私は、障がいのあるなし

関係なく同じ人、人間と見られることが一番うれしいと思っています。

※奈良崎真弓さん（神奈川県横浜市在住 40歳）は、

2年前の2016年7月26日、神奈川県で起きた相模原市障害者殺傷事件（津久井やまゆり園事件）

について、新聞、テレビ、ラジオなどマスキミの取材を数多く受けた。

真弓さんは、「小学校の頃、担任に知的障がい者はこのクラスにはいない」と言われて心が壊れそう

になった。その同じ言葉を植松聖被告が言っていると聞いて、小学生の頃を思い出して、またもや心が壊れそう

になっている。深い悲しみを覚える」と語っている。

現在、花屋さんで働きながら、「にじいろでGOO」や「本人会サンフラワ」で代表として当事者支援でも活躍中。全国各地から講師依頼、相談などを受けていっぱいだこの

忙しさ。海外活動も続けながら、知的障がい当事者の視点から様々な発信を続けている。

また、前向きで真摯な人柄から、支援者や応援団（ファン）も多い。

ゆたか福祉苑

早いもので、秋になりました。秋と言っても、まだまだ残暑の続く中ですが、時々涼しい日間に挟まると、どうにも体調を崩しがちです。

年々気候が変わっているような、そんなでもないような…。皆様は如何お過ごしでしょうか。

ここ数年、一気に身体の衰えを感じている私ですが、自分自身も含め、体調管理には気を配っていきたい今日この頃です。

さて、今回はゆたか福祉苑の夏の便りをお届けします！

事業所全体として行った行事はありませんが、各班それぞれにイベントを企画し、実施しています。その中からいくつかご紹介させて頂きたいと思います。

ライム班では季節のイベントということで、7月に七夕イベントを行いました。活動部屋の中に天の川を作り、短冊を作って飾り付けました。ご利用者の皆様も、短冊に願いを込めて、あたたかな雰囲気にも包まれた一日でした。

ライム班では夏！ということで、近隣にある「メグスパ」でプール活動を開始！実はこの施設、屋内の温水プールなので通年での利用が出来ます。お風呂も併設されており、入浴も楽しめます。銭湯や温泉に行く気分でのお出掛けも楽しそうですね♪



どんな願い事をしたのかな？



水族館



カメラリアハウス夏祭り

8月の土曜開所日を利用し、カメラリアの夏祭りを開催しました。ゲームコーナーや、調理をして焼きそば、チョコバナナ、かき氷などなど作ってみなさんと楽しまれていました。



〜秋便り〜
カメラリアハウスの夏の行事と言えば、毎年恒例の一泊旅行です。今年の旅行先は「静岡県」。天候に恵まれ二日間楽しめました。一日目は、水陸両用バスを楽しみました！二日目は、水族館で沢山の魚を見学しました。何はともあれ、無事に行って来ることが出来て良かったです！

カメラリアハウス

けいよう

9月に入り、大分涼しくなってきました。この夏、けいようではお出掛けやプール外出などイベントが盛り沢山でした！

みんなではいチーズ！！



この日は見事な晴れ模様！ブルーベリー狩りと市川市動植物園へ行ってきました。
ブルーベリー狩りでは30分間食べ放題！皆さん口一杯に頬張っていました！
動植物園では、動物のスタンプラリーをしたり、ミニ鉄道に乗りました。笑顔いっぱい充実した一日となりました☆

10月13日にけいよう恒例の秋祭りが行われました。次回はその模様をお伝えしたいと思います！



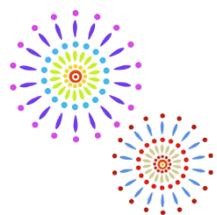
のまゐる

ようやく暑い夏も終わりが近づき、いよいよ涼しくなってきましたね。この夏は、皆さん大きく体調を崩すこともなく、一生懸命に散歩や活動に参加されていました！

そんな皆さんに少しでも夏を感じてもらおうと、今年も花火大会を開催しました！利用者さんの開会宣言から始まり、ヨーヨー釣りや、すいか割りを行ったり、ジュースやかき氷を食べ花火の前に皆さんとても大喜びでした★

いよいよ花火になると、初めは緊張気味だった方も次第に笑顔が見られました。手持ち花火だけでなく、最後は打ち上げ花火も行い、利用者さんもスタッフも皆さん大盛り上がりでした！

改修工事ということもあり、なかなか皆さん揃うことが難しくはありますが、また楽しいイベントを行えるといいですね！



うらのかキッズ 夏の思い出

厳しい暑さも少しずつ和らいできましたね。

秋号では、この夏の楽しかった思い出をご紹介します!!

7月は毎年恒例の夏祭りが

ありました。今年のテーマは

『おばけちゃんのおうちへ

ようこそ♡』。段ボール迷路や

ゲームコーナー、製作、そし

て今年は外の大きなプールで

ボールプールを行ったりと、

ご家族やお友達と一緒に遊び

楽しそうな声がとらのこキッ

ズいっぱいに響いていました♪



8月には土曜参観日がありました。

さくら組は『ゲーム遊びや泡遊び』、

ひよこ組は『触れ合い遊びやパラバ

ルーン』、こあら組は『泡遊びやプー

ル』、いちご組は『リトミックや触れ

合い遊び』と、普段から行なってい

る各クラスの好きな遊びをご家族と

一緒に楽しんだり、給食をみんなで

食べたりと、充実した一日を過ごす

ことができました☆



とらのこキッズの行事は今後もたくさんあります。『親子遠足』や『からだであそぼ!』、『クリスマス発表会』等、たくさんの方の行事を経験していきながら思い出をたくさん作っていきたいと思います!!



さざんかキッズ

猛暑日が続いた平成最後の夏。

さざんかキッズの子どもたちは、

そんな暑さも吹き飛ばすほど

元気いっぱい。

プール、水遊び、どろんこ遊び、

ボディペインティング・・・♪

小さな身体をいっぱい使って、

全身で夏の遊びを楽しみました♪



そして、夏と言えば夏祭り♡

今年のテーマは『海』。おさかなや、

様々な海の生き物で装飾されて

さざんかキッズが海に大変身☆

毎年大人気のまっくらの部屋、

手作り風鈴が並んだ出店、その他

たくさんのコーナーでお祭りの

雰囲気味わいました♪

今年は、感触遊び・シャボン玉の

新コーナーができましたが、そちらも

大好評!楽しい思い出がまた一つ増え

ました♪



ホーム便り

新ホーム「たんご」のご紹介をします！

今年5月24日 船橋市

田喜野井にのまのま
ホームズの新しいホーム
「たんご」が
スタートしました！



ホーム名の「たんご」という名前は、5月にホームを始めるにあたり、5月の季語である「端午」と、前のホームのひとつであるとどんぼが音楽にかけていることから音楽のタンゴにもかけて名付けられています。

平屋建てで、日当たりが良く外観もとても素敵です。



浴室(左)とリビング(右)です。
浴室は機能的でどなたでも使いやすくリビングは広々としており、食事の時には、にぎやかな話声が聞こえるなど過ごしやすい作りとなっています。



一部の入居者様をご紹介致します。
左、服部豪さん
右、末崎幹根さん
お2人とも新しいホームを気に入っていただけただようで良い笑顔を見せてくれています。



今回紹介したお2人に加え、たんごは前カナスギゼン、とどんぼの入居者の方々合計7名が居住されています。皆さんそれぞれ新しい生活となりますがご自身の思い思いの過ごされ方を築かれています。



新企画!

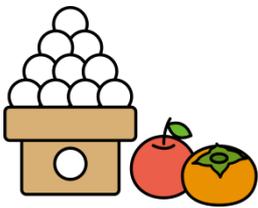
お昼ご飯はなあに？



さぞんか会には複数の事業所がありますが、それぞれで共通しているもの、それはお昼ご飯！

みんなどんなご飯を食べているのかな？気になるますよね？気になりますねえ。...と、いうことで！今回は各事業所において、お昼ご飯の写真を撮って来てもらいました。

今回協力してくれたのは、けいよう・ゆたか福祉苑・カメリアハウス・のまる・とらのこキッズ・さぞんかキッズの6事業所。ご協力頂き、誠にありがとうございました。



カメリアハウス



大エビフライ、和風おろしハンバーグソース焼きそば、白菜とキクラゲの白湯炒め、ぜんまいと白滝煮、味噌汁

ゆたか福祉苑



ご飯、澄し汁、鯖の味噌煮、白菜と大根の旨煮、卵豆腐

けいよう



ご飯、コンソメスープ、ポパイサラダ、白身魚のソテートマトソース、苺のパパロア

のまる



ビビンバ丼、豆腐と青菜の煮物、中華スープ、マスカットゼリー

さぞんかキッズ&とらのこキッズ



ロールパン、ココロ野菜のスーフ、コロッケ、コーンサラダ、オレンジ、牛乳

北総の里だより

「今入所施設の中で考えること」

北総育成園 副園長 白樫久子

今年3月には桜が散り雨のない梅雨は6月に明けた。そして待ったなしの猛暑酷暑の7月8月。体験したことのない豪雨、台風等の大変な自然災害が幾度も全国を襲った。台風21号の西日本被害の翌日には、北海道震度7の大地震。多くの犠牲者が出ている。私達の住む千葉には今はそうした被害はないが、他人事ではない。明日は我が身。北

総には、自分の身を守ることが困難な利用者が大勢暮らす。その生活を支える職員も被害を受ければ、日常の業務に入れなくなるかもしれない。地域の皆さんの避難場所として北総を利用していただくこともあるかもしれない。日常的な生活を過ごしている我々のできることは、被災地に心を寄せ、我が事のように

にその苦しみ悲しみを考える想像力を持ち続けること。そして、いざという事態への準備、避難訓練やマニュアルの確認を怠らないことであろう。



北総では毎月、避難訓練を行う。火災想定、地震想定、夜間想定など、消防署からのご指導の下防災委員会が計画実施。ポイント①「訓練は本番のように真剣に行う」②「職員はチームワークよく、しっかりと声を出して」③「利用者さんにはわかりやすい指示で、落着いて避難してもらおう」そして④「報告をきちんとして終了」である。

北総も年々高齢化重度化、介護度が高まり、この避難訓練も大変になってきた。車いすの人、歩行要介助の人、常時ベッド利用の人。サイレンや放送等非日常的で突然のことに対応できない人。訓練を行う中でも怪我や混乱を招かない細心の留意が不可欠である。そして経験の少ない職員もいるので、ベテランや防災委員会を中心に避難訓練や日常的な心がけを指導している。同じ顔ぶれの職員と利用者が同じ屋根の下で暮らす入所施設で

は、マンネリ化し危機管理意識が低下しやすい傾向があるといわれる。改めて、自身の状況理解や対応が困難なこの人達の命を守る入所施設として、その意識と実際について見直しを繰り返して行っていく。

西日本や北海道他の被災地には、障害を持った方達やそのご家族も多くおられるだろう。被害を受けた施設や職員のご苦労は如何程だろう。7年半前の東日本大震災で北総は20日間の断水があった。食料・飲料水・衛生用品の確保、入浴・洗濯の大変さ、多くの皆様の多大な支援があった。乗り越えてきた。きっと各地でも多くの支援で障害のある人を助けてくれていることだろう。更に行政にもお力添えをお願いしたい。

8月末、約30年北総を利用したHさんが、長期療養のため療養型病院に入院した。ご本人は「よくなったら北総に戻ってきます」と救急車で搬送された。先日は50代男性利用者のご家族から「心身ともに大変になってきてこれからも北総で過ごせるだろうか」と真剣な相談があった。ご相談できる家族がない利用



者も増えた。成年後見人さんが丁寧に関わってくれているケースもある。現実的な課題は山積している。一施設だけで抱えきれないことはご家族・行政・関係機関にご相談しながら丁寧に対応していくしかない。

9月に入りようやく朝の風には秋の気配を感じる。園芸班のシクラメン、農耕班の大根の種まき等秋の作業が一步步進んでいく。大切なことは一人ひとりの「出番とやることのある暮らし」。それがたとえベッドの生活でも、その人の大切な一日になるように、北総の一日が今日も始まる。

「オンラインワンの仕事を目指して」

笹川なずな工房 支援主任 圓城寺 央

私はらっきょう作りが好きです。一番魅力に感じる所は強い生命力です。夏の暑さ、秋口の台風、冬の寒さ、環境に耐え痩せ地でも強く・たくましく育つ姿を見ていると自分自身も環境に言い訳をせずに、与えてもらった事に感謝をしなければという気持ちになります。農産加工班の作業の中でジャムにつき比重を置く仕事かららっきょうの仕事です。今年も畑で栽培したららっきょう約750kgを収穫し加工迄を行い、甘酢漬けにしました。今年の加工分も徐々に漬けあがり販売がスタートした所です。

ありがたいことに販売する近隣の常設店等からも（なずなさん！らっきょうまだなの？待っているよ！）と言って頂けるようにもなりました。年間にする約2500パック販売します。栽培、加工、漬けあがり迄を合わせる迄一つの製品として仕上がる迄に約10ヶ月以上掛かります。収穫が始まれば利用者さん、職員

とで2ヶ月以上に及び加工作業を総力戦で行います。各仕事ごとのスペシャリストは期間中らっきょうを洗い続ける人、下処理をする為、薄皮をむき続ける人、根を切り続ける人とそれぞれが得意とする分野で力を発揮してくれます。それだけに利用者さん・職員共に製品に対する思い入れは強くあります。しかし、期間を要するだけに手間も掛かります。決して効率・畑の回転も良い仕事とはいえない所もあります。だからこそ需要がある、自分達の強みの部分を生かせる仕事として利用者さん・職員が誇りを持って仕事をしていきます。自分自身も作業班運営を任せられる立場として、自分達にしかできない仕事を確立できるようにらっきょうという仕事の可能性をより深く見出ししていきたいと思う所です。

限られた時間、人手、環境の中で数多くの事はできなくとも、この分野なら負けない、自信を

持って勝負できる！ そんな仕事にしたいと思っています。製品としての需要もあり、利用者さんの仕事としても適応性が高く、とてもやりがいがあります。三年前から栽培方法を試行錯誤していき私達にとってベストな栽培方法も徐々に固まりつつあります。まだまだ改良できる点がある事に喜びを感じつつ、今年もらっきょうの植え付けを楽しみにしています。利用者さんと共にらっきょうという作物の成長、仕事を通してこれからも強く、たくましく進んでいきたいと思っています。





ランプ発

こんにちは。魔法のランプ職員
牟田です。今回は当事業所での外
出支援の詳細についてお伝えし
たいと思います。

ランプでは基本的に利用者様
からのご依頼時に行き先のご指
定を頂きますが、その中には職
員・ヘルパーに過ごし方をお任せ
頂くことも珍しくありません。こ
のような時こそ腕の見せ所で、
日々船橋を始めとした周辺ス
ポットの情報収集を行っており
ます。

例えば、今年は酷暑とも言えた
夏場については、まず屋内で涼し
むことを第一に場所を探します。
代表的なのが、イオンなどの
ショッピング施設です。大規模な
店舗ではウィンドーショッピング
と散歩を兼ねることも可能で
飲食店も豊富、そして身障者用な

ど広々としたトイレも完備されて
いるので、多くの利用者様をお誘
いしております。

また乗り物好きな方は、電車・
バスにご乗車頂くこと自体をメ
インとすることが多いです。職員
皆、新京成を始め、首都圏の路線
には詳しくなれたと思います。同
じ電車乗りでもお座りになり景
色を楽しまれる方、空いていても
窓側に立ち続ける方、最前車両に
必ず向かう方、下車後車掌さんに
手を振りお見送りをする方など
など楽しみ方は様々です。

このように利用者様の好みの
過ごし方を事前に把握すること
に努め、行き先をご提案するの
ですが、時には新たな場所へご案内
してみようという試みも一方で
行っております。例えば歌に興味
ありそうな方だな…と思いカラ
オケにお誘いしてみたら身体を
揺らし、曲に合わせて声を出し、
楽しそうに過ごされた方が後日

のお出掛けで、自ら「カラオケ！
とリクエストして頂いた時があ
り、この時は「楽しみの幅を広げ
られたかな」とやりがいを非常に
感じた瞬間でもありました。最近
のカラオケは比較的皆様が好ま
れる童謡やNHK番組での曲も
アニメ映像と共に流れることが
多く、視覚的にも楽しめる要素が
あり「カラオケの反響音や個室に
入るのが苦手かな？」と事前の懸
念をよそに複数の利用者様に楽
しんで頂いております。勿論その
逆という場合も時にはございま
すが、未経験なことに接する機会
を提供するのは利用者様の成功
体験に繋がるのかも…と思い次
の支援に活かすようにしており
ます。

利用者様が心から楽しんで頂
くにはどのような形で寄り添え
ば良いのかという「終わりの無い
問い」に対しての日々を私の拙い
文章ではございますが、お伝え出
来たなら幸いです。(牟田)



←【職員オススメスポット】
京葉線千葉みなと駅近くから乗船出来る観光船です。
船内でエサ用かっぱえびせんを購入すると大量のカモメがやって来てスリル満点(^_^)でも眺め最高で潮風も心地良かったです♪

後援会だより

平成30年6月5日(火)、薬園台公民館にて平成30年度さざんか会後援会総会が行われました。総会の後、午後の部として行われました、社会福祉法人さざんか会宮代理事長をはじめ、各事業所の管理者の方々とのシンポジウムについて報告します。

【宮代 隆治 理事長】

平成30年度は次の5つの目標を定めて取り組んでいきたいと思ひます。

- 1.報酬改定に対する分析と対応。
- 2.人材確保と育成。
- 3.高齢化への対応。
- 4.療育待機児の問題。
- 5.事務局体制の強化。

以上、それぞれ難しい問題ですが、取り組んでいきたい。今後ともご協力お願いします。

【北総育成園 武井 敏朗】

開設44年目を迎え、利用者の平均年齢が56歳、60歳以上の方が3割を越え、80歳代の方もおられます。ご本人の親亡き後や終末期をどう支えていけるかが課題です。

【北総育成園 白樫久子 副園長】

今、利用者の高齢化に伴い、行政と医療に力になつていただけると課題です。また、人材育成について、ご家族からの「ありがたい」の一言が若い職員の意味に繋がっており、ご家族の暖かさに感謝しております。

【のまる 泉 一成】

建物の改修工事が始まりました。利用者ご本人の想いを汲み取りながら、ご家族、事業所がベストマッチさせた暮らしを支えていきたいと思ひます。人材の面では、日中活動を支える職員と夜間支援の職員を分けていきたいと考えています。

【けいよう 古川 世志恵】

利用者の高齢化に伴い個別対応の方が増えてきました。20歳代の若い方から70歳代の方までを3つのグループで分けるので、活動が難しくなっています。職員は改善のため色々工夫しています。今後課題です。

【ゆたか福祉苑 尾村 勉】

大規模改修を終え、改めて活

動グループの再編をしました。これからも利用者本人に思いを寄せつつ所作や言葉遣いに至るまで「船橋で一番丁寧な事業所」を目指して参ります。

【笹川なずな工房 荒井 道貴】

強固な石垣のように、多様な人間がそれぞれの居場所や役割を果たし認め合っていくことが強い社会を作ると考える。国は持続可能な制度作りを唱えるが、我々も要求ばかりでなく、地域に貢献し、社会の一員として働く事を大切にしていきたい。

【カメラハウス 藤敷 正英】

その日来てくれたら何かしら持って帰ってもらいたいとの思いを大切にしており、それが結果したかのような反応が見られると嬉しく思ひます。今後も足をしっかり見ながらカメラハウスを引っ張っていききたい。

【DDホームズ 渡邊 隆宣】

自主研修会や外部研修により職員のレベルアップを計り、より良い支援に結び付けたいと考えています。「先生辞めないでね」と家族からいただく信頼がモチベーションになっていきます。

【のまのまホームズ中川 公二】

グループホームの管理者なら

びに児童の相談支援を兼務しています。成人するまでの過程で、多くの経験と関係先を作っておくことが、その後の長い成人期に活かされてくるように感じています。

【とらのこキッズ 齊藤 幸子】

4月に特別支援学校高等部の入学式に出席し、卒園生が大きく立派に成長した姿を見て感慨もひとしおでした。現在は待機児童の問題、求められる家族支援のあり方等、色々なことを考えさせられています。

【さざんかキッズ 奥山 裕美】

年長クラスの親御さんと公開学校見学会に行くなど就学のお手伝いをしていきますが、全ての人が希望通りの学校に入れる訳ではない現状はご家族にとって深刻です。療育の待機児童も同様であり、次の一手を打つ必要があるのではないかと考えます。

【魔法のランプ 山田 朝広】

消防法の改正で夜間支援を継続するためにはスプリングクライ設置が義務となり、新築の戸建てに引越しました。現在、人材不足と児童の方の利用が増やせない点が課題となっています。

※各管理者の役職名は省きました。